



元 気 に マ ジ メ に 笑 顔 を つ な ぐ

あゆみだよい

2017年8月31日発行

No.207



佐藤晃也
です。
あ
ゆ
み
の
家
の
所
長
の
こ
ん
に
ち
は。

あゆみの家は、平成29年4月から第二期の指定管理期間に入りました。

そして、新しい指定管理期間のスタートと同時に、前任の矢沢正春に代わり、佐藤晃也（さとう あきや）が新所長として就任しました。

そこで佐藤所長にインタビューを行い、いろいろなお話を聞きましたので、その人となりをご紹介します。

出身はどちらですか？
子どもの頃の思い出はありますか？

出身は、秋田県にかほ市です。鳥海山のふもとで生まれました。海と山に囲まれた自然のとても豊かなところです。

実家はガソリンスタンドと雑貨店を営んでいます。今でも、母親は健在です。

子どもの頃は勉強そっちのけで、夏休みには野山を駆け巡ったり、海に潜ったりして遊んでいました。

学生時代はどう過ごしましたか？

高校では山岳部に入り、山ばかりの生活を送りました。

大学受験は1年浪人し、ひとり暮らしをしながら、仙台の予備校に通いました。

そして、大東文化大学法学部に入学しました。当時の大東大は大学ラグビーの全盛期で、キャンパスでトンガから来た留学生を見かけたりしました。

大学時代は勉学に勤しました。

法学部の指導教授とは、今でもお付き合いがあります。

社会人生活のスタートは？
これまでのキャリアを教えてください。

大学卒業後、ドラッグストアを紹介され、就職しました。

もともと学生時代から身体に興味があって、ツボの本を買ったりしていました。

仕事をしながら夜間の鍼灸の学校で資格をとり、その後昼間の理学療法士の専門学校に通いました。

大田区の東京衛生学園専門学校の2年生のときに、同じ山岳部だった高校の同級生と結婚しました。34歳っていました。

理学療法士として、神奈川県の海老名総合病院に3年ほど勤務した後、福祉用具のアビリティーズ・ケアネット株式会社に転職しました。

アビリティーズでは、本社の営業と吉祥寺にあったクリニックのデイケアを兼務していました。

仕事はやりがいがありましたが、ともかく忙しく、深夜帰宅が続いていたそんなときに、子供が生まれました。

女の子と男の子の双子でした。

「毎日帰りが遅いと、奥さんは大変だろう。しかも双子じゃないか。定時に帰れるような仕事に変わったらどうか。」と言ってくれた学校の先輩が、埼玉県の専門学校の教員の仕事を紹介してくれました。

そこで7年間教えて、江戸川区西葛西の東京メディカル・スポーツ専門学校に移り、平成29年4月まで勤務しました。

本当に周りの人に恵まれ、たくさん的人に助けられてきました。皆さんに感謝の思いでいっぱいです。

あゆみの家と関わることになったきっかけは、何だったのでしょうか？

娘が友達に誘われて「新宿フットボールクラブ」に入ることになりました。

私もサッカーは未経験でしたが、娘と一緒に挑戦することにしました。

その新宿FCのスタッフの一人が矢沢正春さんだったのです。

ある日、矢沢さんと居酒屋でバッタリお会いすることがあり、新障協（新宿区障害者福祉協会）があゆみの家の運営を担当することになったので、理学療法士として、週1回手伝ってほしいとの依頼がありました。

以前、あゆみの家にあった「あいあい」に息子が通所していたことから、これも何かの縁だと思い、引き受けることにしました。



実は所長就任については、以前一度打診があったのですが、そのときはクラスの担任をしていたので、卒業まで保留にしてもらっていました。

そして、昨年12月に矢沢さんから「あらためてお話ししたい。」とファミレスに呼び出され、お店に行くと、新障協の役員の皆さんが出揃っており、実質、面接試験のようになってしまいました。

結局、皆さんの熱意に負けて、当面は週1回、専門学校で引継ぎを行いながら勤務することを許可していただき、あゆみの家の所長という大役を引き受けました。

趣味、特技などはありますか？
休日はどう過ごしていますか？

趣味といえるほどのものはありませんが、土いじりが好きです。

自宅のマンションのベランダで草花を育てていますが、最近はあゆみの家の緑化に取り組んでいます。

休日は、息子と新宿御苑を散歩しています。また以前の仕事の関係もあり、ドラッグストア巡りを楽しんでいます。結構店によって違いがあるものなんですよ。

映画も洋邦問いませんが、この間観て面白かったのは、百田尚樹の原作の「海賊と呼ばれた男」です。

実は母親が裏千家のお茶を教えていたので、茶道には親しみがあり、今は知り合いの紹介で、表千家のお点前を習っています。今後も楽しみながら続けていきたいと思っています。

最後に、佐藤所長からメッセージをお願いします。

あゆみの家の所長の佐藤晃也と申します。

身体のことは30年間勉強してきましたので多少はわかりますが、福祉のことはまだ分からぬことも多く、これから勉強していきたいと思っています。

利用者様、ご家族、職員の皆さん、地域の方々、すべての人が笑顔でいられる環境づくりが自分の仕事だと思います。

そのためにも常にアンテナを張って、その時々のニーズを汲みとめていくつもりです。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



我が街、落合・その15

「優っくり村」新宿西落合

先日、あゆみの家と交流イベントを行った「優っくり村」新宿西落合。

あゆみの家からも近い「優っくり村」について、「優っくり村」ショートステイ事業の管理者の中川さんにインタビューを行いました。



施設全景

Q 今日は貴重な時間をいただき、ありがとうございます。

A いえ、こちらこそありがとうございます。

Q 「優っくり村」って、どういう施設なんでしょうか。

A 3つの介護保険の事業所が一つの建物に入っているのが、「優っくり村」です。グループホーム、ショートステイ、小規模多機能の3つの事業を行っています。

Q 「優っくり村」の特色は何でしょうか。

A 他の「優っくり村」や各事業所での取り組みは異なりますが、利用者と



音カフェ

ゆっくり一緒に楽しくをモットーに支援しています。

また、地域の方との交流を大切にしているので、カフェやカラオケなどのイベントを実施し、地域に根ざした事業所を目指しています。

私が担当している西落合のショートステイでは、午前も午後もレクリエーションを組んで、その日の利用者に合わせたレクリエーションを行うようになっています。利用者が普段、ご自宅にいることが多いので、ニーズに合わせ、特に外出を多くしていて、利用者の方に外出する機会を増やしているっていうのを売りにしています。

若い職員が多く、明るい職員も多いので、来たくて来ている利用者の方が増えています。

利用者から「他施設のショートステイを利用したが、つまらなかった、やることがなかった。」という声が多くたのですが、ここではそういうことがないようにしています。

「優っくり村」の各事業所の目標はそれあります。ショートステイ事業部では、リピーター率100%を目指しています。

また、地域と交流ができるイベントを行っています。その告知方法は、利用者の方とポスティングを行い、お知らせをしています。

Q あゆみの家の印象はどうでしたか。

A あゆみカフェの時に利用者の方と伺ったのですが、職員の方々がよく挨拶をしてくれて、明るい雰囲気だと感じました。

Q これからあゆみの家の関わり方はいかがでしょうか。

A 今まで少しは関わりを持っていますが、何か共同のイベント等を行いたいですね。

「優っくり村」には大きなホールがないので、あゆみにホールがあれば、何かそこでイベントができたら楽しいでしょうね。



交流イベント

(インタビューを終えて)

「優っくり村」新宿西落合は、平成28年にオープンしたばかりの新しく綺麗な施設です。

高齢者の方が住み慣れた地域で生活が続けられるよう支援する、とても家庭的で温かい雰囲気のところです。

これからも、あゆみの家とのご近所づき合いをどうぞよろしくお願ひいたします。

施設見学 のご報告

これからのおゆみの家のあり方を考え
いくための参考として、二つの施設を見学
してきましたので、報告します。

中野区立かみさぎこぶし園

6月19日、中野区上鷺宮1丁目にあるかみさぎこぶし園を訪問しました。

社会福祉法人東京都知的障害者育成会が運営している、定員45名の生活介護施設です。

施設のミッションは「利用者の人権と意思を大切にし、人ととの関わりを通して、健康で豊かな地域生活を安心して送れるよう支援します。」というものです。

施設の特色としては、地域の要望に応え、重度心身障害者の通所事業を展開しており、利用者本人、保護者とのコミュニケーションを大切にして、ひとりひとりの

ニーズを丁寧に汲み取って実現しているところです。

一方で、広いプラスチックフォームを導入し、介助の上下動を少なくして職員の介助による疲労を抑える工夫も同時に取り入れています。

食事は各階の食堂で一緒に食べ、経管栄養の方は別の部屋に誘導するなど、細やかな配慮をしています。

また、玄関、トイレ、浴室等安全性と介助動作を考えた改修がなされています。



中野区立かみさぎこぶし園

杉並区立なのはな生活園

7月25日には、杉並区宮前2丁目にあるなのはな生活園を訪問しました。

この施設は杉並区が運営しており、JR中央線荻窪駅からバスで10分のところにあります。

定員は28名の生活介護施設で、施設の基本理念は「地域の中で、その人らしく生きていくことを支援します。」です。

施設の特色ですが、活動室としてホール（食堂）、第1～3活動室、園庭があり、ホームルームは全員ではなく、プログラムに応じて各活動室で行うそうです。

また、園庭では、利用者、ボランティア、職員と一緒にトマト、きゅうりなどの野菜を育てて収穫しています。

医療的ケアは、杉並方式としてルールを作り、支援員が看護師とコミュニケーションを取りながらケアを行っています。

医療的ケアへの支援員の関わりについては歴史があり、支援員の教育の一環として活用していることです。

なのはな生活園は、地域の理解とボランティアと一緒に園内の活動を行っています。



杉並区立なのはな生活園

まとめ 二つの施設を見学して

あゆみの家としても、利用者ひとりひとりへの配慮はもちろん、保護者、地域、新宿区、支援員とのコミュニケーションをとりながら、より一層安全、安心な施設にする努力を続けていく決意を新たにしたところです。

コミュニケーション不足によるミスが出ないようにす

るシステムが作られていたり、情報共有の仕方も大変参考になりました。

中野区立かみさぎこぶし園の皆様、杉並区立なのはな生活園の皆様、ご多忙にもかかわらず、快く見学を受け入れてください、紙面を借りまして心より御礼申し上げます。

どうもありがとうございました。